



感動した「合唱部定期演奏会」

昨日5日(日)は、合唱部の定期演奏会が開催されました。合唱部は今年度もコロナ禍で、部活動の運営も困難な中、声を合わせたり全員の気持ちを一つにしたりしながら頑張ってきました。結果としてNHK音楽コンクールで金賞、九州大会銅賞、また熊日学生音楽コンクールでは最優秀賞と熊日大賞受賞という成果を残してきました。

今回の定期演奏会は、その集大成として、開催され、来賓の方々をはじめ、たくさんの観衆も体育館に集まりました。会の中では、1年間の思い出の曲や、帯山中学校の合唱部の特別出演もあり、最後はミュージカルの披露と、合唱部の一人一人が活躍していました。

思い出の曲のオープニングは、NHK音楽コンクールの課題曲「とどいてますか」でした。これは谷川俊太郎さんが作詞され、この曲について谷川さんは「誰かが歌っていると自然に自分もそこに参加したくなる、一人の自分の歌がそのまま何人もの違う自分の歌になる、それが合唱の始まりです。単数のメロディが複数のハーモニーになることで、生まれる美しさ、それは人間社会のありかたそのものではないでしょうか。」と述べています。子供たちの歌声に、谷川さんの思いを体現した感覚を味わいました。

また、熊日音楽コンクールで歌った「歌声はどこに行くの」も心を揺さぶられました。歌詞の中にある「歌声はどこにいくの?私の歌は風にのっていくの?あの山越えて あの海越えて 朝日の昇る場所まで行って 明日のエネルギーになるのかな(中略)歌は消えない 波になって響き 輝きになって残り 雨になって降り注ぎ 雲になって旅をする この世界の一部になって いつか地球を取り囲む 争いを花開くエネルギーに 諦めを勇気や励ましに変え 祈りや願いになって 歌声は地球を包み込み 私たちを見守っているんだよ」と歌声によって心に語り掛けてくるようでした。

最後のミュージカルは、「不思議の国のアリス」でした。歌と踊り、また笑いもあって、微笑みが会場中を包み込んでくれました。

会の冒頭でも私が述べたのですが、この歌声を戦争や紛争を起こしている国や地域の人々の心に届けることができるのであれば、その心を潤し、戦争や紛争の抑止と成り得るのではないかと思うくらい感動しました。考えてみると、争いは、日々自分の中で起きています。「明日から仕事かあ。」とか「あれもせんといかんあ。」とか人に言えない悩みや苦しみは誰しも持っていて、日々自分との闘いなんです。そんな葛藤をいつも合唱部の皆さんの歌声で、私自身、勇気をもって励まされて一歩を踏み出せる場面がたくさんありました。

昨日参加された、会場の人たちも、きっと勇気や励ましをもらって、帰路につかれたたことでしょう。合唱部の皆さん、そして合唱部を指導してくれた先生方、さらにそれを支えてくださった後援会の皆さん、感動をありがとうございました。

